



TITLE:

北京學界の昨日・今日

AUTHOR(S):

今堀, 誠二

CITATION:

今堀, 誠二. 北京學界の昨日・今日. 東洋史研究 1942, 7(1): 64-66

ISSUE DATE:

1942-05-20

URL:

<https://doi.org/10.14989/138811>

RIGHT:

北京學界の昨日・今日

今堀 誠二

支那事變以前に中國各地にあつたミツシヨンスクールが、國立諸大學と歩調を合せて奥地に逃げ込んだ事はよく御存知と思ひます。即ち金陵・齊魯・華中の三校が成都へ、嶺南が香港へ、福建協和が長汀へ、金陵女子文理・東吳・之江・滬江・セントジョンスが上海英租界へ、いづれも逃避したのですが、唯北京の燕京輔仁の兩大學のみが（この他協和醫學院や自然解消の中法大學は別として）天津の工商學院と共に、重慶側の嘲笑と新政府側の白眼視を外に依然として舊態のまゝで残存し、色々な意味で内外から注目をあびて居た事は——そしてその大學自身はその故に事變成金の様に飛躍的發展をして行つた事も亦事變の性格の一面を物語るものといふ事が出来ませう。

今度の大東亞戰爭の始まつた日の午前六時には、北京の此等の諸校は皆一瞬にして閉鎖されてしまひました。燕京では教員は全部軟禁され、學生は家に歸され

ました。鳥居博士や張爾田郭之誠容庚朱士嘉洪業の諸氏も亦さうなつて居ると思はれます。何しろ年三百萬圓近く經費を要する事でありますので、その點から言つても、今後如何なるかは決着し難い事です。維持論と閉鎖論がありますが、燕京はむしろ單なる自由主義者の集りであつても必ずしも新政府にとつて有害な存在ではなく、又學術上に貢獻して來た功績を買つて、何とか都合をつけたいといふ論が多い様です。輔仁大學はカソリック・ミツシヨンで、十箇國の國人が教鞭をとつて居ましたが、北清事變の米國賠償金を五十萬圓ほどもらつて居たといふ理由から閉鎖されましたが、翌日から開校を許されました。同時に改組を行つて、例のモニュメンタセリカの編輯主任であるハイフェル——氏の口語は僕よりは大分上手です——が教務長に細井次郎氏が秘書長になりました。陳垣校長は細井氏と非常によく、又教育總署督辦の周作人とも老朋友ですから、恐らくよくゆく事と思ひます。これは開戦前からの計畫ですが、日文系も今秋新學期から開かれます。ついでに同校史學系の本年の講

義題目を記してみますと左の如くです。

中國史綱要	柴德廣講師
秦以前史	張星烺教授
秦漢史	余遜講師
魏晉南北朝史	牟傳楷講師
隋唐史	葉德祿教員
宋遼金元史	張星烺教授
明清史	張鴻翔講師
清代學術史	牟傳楷講師
中國史學名著評論	陳垣校長
史源學演習	陳垣校長
中國民俗史	張鴻翔講師
中西交通史	張星烺教授
中國歷史研究法	柴德廣講師
研究院（大學院）の歴史研究所には今二十名位の學生が居ますが、東洋史の方では陳垣が清代史學考證法を講じて居るだけです。この他社會經濟學系で魏重慶講師が中國社會經濟發展史を講じて居ますが氏は同題目で中國大學でもやつて居ます。フックス名譽教授が滿洲語文學を擔當して居るのはとも角余嘉錫沈兼士趙萬里孫楷第等の名だゝる大家が、支那學各般にわたり講筵を張つて居る事は一大盛觀と言へませう。當分北京の學界の中心	

は輔仁大學ではありませんまいか。

それから北平圖書館は、國立であつても重慶側の國立で、米國賠償金返済金で維持して來ましたものです。昆明の本館と連絡をとり、北京に於て西南關係の本を集めて昆明に送る使命を果して居ましたが、これも一日おかれて九日に閉鎖しました。然し我々留學生には非常によくしてくれた縁もあり、せいぜい年二十萬圓足らずの經費ですむ事でもありますので、維持閉鎖される事となり、正月二日に華北政務委員會に引きつぎを完了、大體舊陣容で近く再開されます。名稱も北京圖書館となり陳代理館長も任命されましたが、彼は教育總署の下つ葉役人で、何だか梁啓超蔡元培袁同禮とついで來た傳統の上から、多少心配にならないでもありません。圖書等は一冊の紛失もなく、その點御安心下さい。又英米系中學校は本日から復活上課して居ます。

かうして外國系大學圖書館はすべて變りましたが、外國機關が無くなつたからといつてそれで直ちに日本依存となると考へるのは早計です。それは外人勢力の過大評價による誤算であつて、日本の學

界の實力に訴へる他、手段が無かりさうです。その意味に於て今西春秋氏の北京大學に於ける遼金元史の開講は意味が深いと思ひます。得意の中國語で通譯なしに講述し學生を烟に巻いて居られるとか聞きました。馮承鈞が九月から教授に聘せられ、西北支那史、中西交通史、南洋史等を始めて居られますが、廣東語などで何を言つてゐるのかサツパリ判らんさうです。北京大學も段々とよくなつてゆきます。

師範大學では李岱芬が文學院長になりましたが、ニセ共產黨員から脅迫狀を送られたりして新聞をにぎはせた程度で、今のところ従前通りで何等變つて居ません。但目下新規則を計議中で、三月の新學期から男女合班の上新制度によつて講義される事になります。その時に又御通信申上げませう。師大文學院學報はもう編輯を終り、この三月に出版されます。中國大學でも孫人などが音頭をとつて中國大學々報を出す由ですし、在燕の日籍學徒で「中國文化學報」を出す計畫も目下印刷中といふ所です。これ等は皆季刊ですが、いづれにしても北京の學術界

が日一日と復活してゆく傾向にあるのは心強いです。

香港には香港大學にも支那史學科がありますが、これは校舎の立派なのに似ず惜しい様な存在ではありません。嶺南と共に閉鎖されたでせう。上海では上海キリスト教聯合大學と光華復旦大夏の諸校がつぶれたはずですが、さうなれば國立上海大學は南京の中央大學と共に是非共充實してゆかねばなりません。商務印書館も閉鎖したのですが、靜安寺路にあつた東方圖書館殘存書や中央銀行倉庫にありと言はれた北京圖書館及故宮圖書館南遷本の運命も氣がへります。その他徐家匯天主堂藏書樓及博物院・工部局圖書館（上海洋文書院が實名です）・亞洲文會藏書樓及博物院・李提摩太記念圖書館・尙賢堂圖書館等も亦我方に接收されたと思はれます。上海香港の情勢に就てはよく判りませんが、もう一度行つて見たいといふ希望がしきりに動いて居ます。

かうして上海天津の佛租界及奧地にあつた機關以外は、一通り事變の波をかぶつたわけになりますが、その後新しく燃え上つて來るであらう學界の動きに最

も期待されます。とも角從來中國の教育界の大動脈であつた英米の勢力が、一度になくなつてしまつたのですし、加ふるに重慶側の降伏も時機の問題となつた今日に於て、混沌の中から吹き上つて来るものは何であらうかと、否如何にあらねばならないのであらうかと、協和醫院の縁のいらかを眺めながら考へ續けた事でした。

「新しい願望が目覺める。

女神の永遠なる光が飲みたさに、夜を背にし晝を面にし

空を負ひ波に俯して、己は驅ける。」

(フアウスト)

を明日の中國に希望する事は餘りにも夢想に過ぎるでせうか。(二月八日)

*

*

(荷同氏より續いて次の通信があつた。)

北京の其後では燕京大學と協和醫學院の永久閉鎖が決定しました、華北軍當局の談話の形式による發表は次の様です。

大東亞戰爭勃發後、英米の文化侵略の禍根を茲除し、且新東亞文化を建設するといふ見地から、英米の經營に係る諸學校を前後して中國側に接收せしめ且開校

せしめた事は、人々の周知する所である。然し乍ら、惟燕京大學及び協和醫學院の二校は、支那事變發生以來、唯に東亞新秩序の建設に協力しないのみならず、か

へつて依然抗日思想により教育を行ひ米國の文化侵略の走狗となるに甘んじた。又曾ては重慶政府の指令に接受し、一部學生を重慶に送らんとし、並に時々英米及び重慶政權に種々の情報を供給した。

この種の敵性行爲は、極めて顯著であつて、今回の調査によつて、更に極めて確實なる證據を得た。現地當局は斷然以上二校を廢校させる事とした所以である。

但該二校の學生及教職員等は學校の停頓以後、已に大いに醒悟し、多くの者は英米依存の思想を改變し、東亞新秩序建設に對して協力する事を表示した。これは實に喜ぶべき事である。華北政務委員會は、思想の正しい學生及び教職員に對し已に力をつくし法を設けて、その轉學及轉職せしめる事とした、又北京大學及び

其他の大學等は、この兩校の學生及教職員を收容せんが爲に、學校の内容を改善する事を計畫し、以て新中國の有爲の指導者を養成將來せんとして居る。同時に

目下軍に於て使用中の北京大學校舍を北京大學に返還せんとするものである。(實報よりの譯)

教育總署の「私立燕京大學、協和醫學院學生及教職員善後處置要綱」によれば學生は北大に編入し、もし收容しきれない時に於ては國立各校院及私立專科以上諸學校に編入する、教職員は適當な所を紹介する(學識技術及思想行動によつて)と言ふのであつて、事實としては學生は北京大學を主として輔仁等にも入り、教職員は各校にバラまぐ事になる様です、一月末日までの月給を拂つて、各教職員は正式に解聘されました。北大に憲兵隊の建物を渡すのは、周作人の主張に基いたものと言はれて居ます。また正式に處置がついて居ないので、實行に移すと随分色々な事がある事でせうと思はれます。これで燕京大學も正式に消滅したわけで、十二月七日に例のブルーパスで北海にのりつけて、大さわざをして居たのが、最後の盛宴であつた様です。北大が舊文學院をどう使ふのかまだ聞いて居ません。